

PONNO²

ポ・ポ・ノ

vol.4

2004.10 発行 浦安市 経営企画部 企画政策課 人権・男女共同参画班
〒279-8501 浦安市猫実1-1-1 TEL 047 (351) 1111
編集：情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」受講者

特集 はずしませんか？ ジェンダーの鎖

知らず知らずのうちに、「女はこうすべき」「男はこうあるべき」と考えてしまうことはありませんか？ 自分がとらわれているジェンダーの鎖の存在に気づき、少し見方を変えてみることで、今よりさらに自信をもって、心豊かに生活できるようになるかもしれません。本号では、「子育て期」「更年期」「熟年期」について、ジェンダーの視点からスポットをあててみました。



子どもの可能性を広げるために

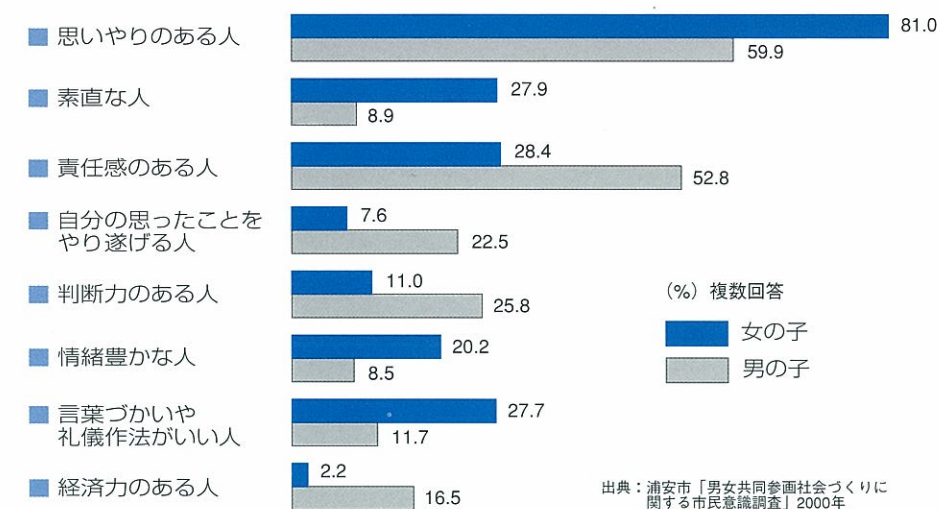
子どもにとって、親は最初に出会う最も身近な教師です。子どもは親からたくさんのお話を学びます。でも、親自身が、「女らしく」や「男らしく」という意識にとらわれてはいませんか？ また、子どもの頃に親からそのような言われて、納得できなと感じた経験をした人もいないでしょうか？ 子どもが、性別に関係なく持っている力を発揮して、将来より多くの選択肢を手に入れるために、今、親に何ができるでしょう。

女の子と男の子では期待される姿に大きな差が…

浦安市の市民意識調査の中の「子どもに期待する人間像」の設問から、男女差の大きい項目を抜き出したものが下のグラフです。

全体として最も望まれているのは、「思いやりのある人」です。しかし、それ以外の項目を見てみると、主に男の子に求められているのは、「責任感、判断力、やり遂げる力、経済力」といった資質であるのに対し、女の子には「素直さ、礼儀正しさ、情緒の豊かさ」がより多く求められていることがうかがえます。しかし、このような資質は、子どもが育っていく上で、男女関係なく必要なことではないでしょうか？

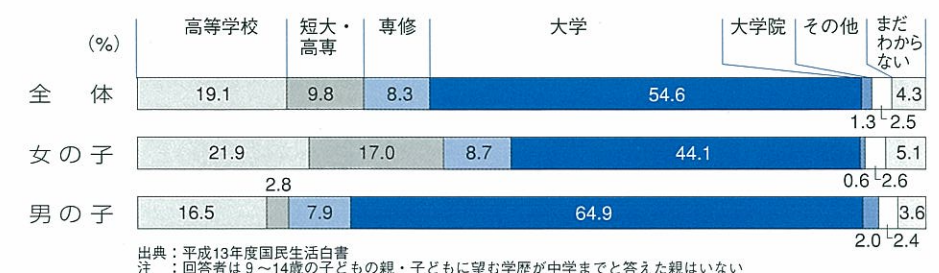
子どもに期待する人間像



親が期待する子どもの学歴は…

下のグラフは、親の子どもに対する学歴期待を表したものです。子どもを大学・大学院に進学させたいと望む親は、全体で55.9%です。子どもの性別ごとに見ると、女の子の親は44.7%、男の子の親は66.9%で、20ポイント以上の開きがあります。逆に高校までについては、女の子の親は21.9%、男の子の親は16.5%となっています。

子どもの性別により異なる学歴期待



あなたはどうか考えますか？

2つのグラフに見られる性別による違いは、何を意味するのでしょうか？ 親は、自分がとらわれている「鎖」の存在に気づき、その鎖をはずすことができれば、子どもの可能性をより広げることができるのではないのでしょうか？ そして、その過程で親自身も、自分の中に眠っている可能性に気づくことができたなら…。

それは、多様な生き方が認められ尊重される社会、自分の生き方を自信を持って選択できるような社会への第一歩とならないのでしょうか？

楽しく歳を重ね、自分らしく生きたいものです。人生80余年、人は心の持ちよう、老いを遅らせることができるのではないのでしょうか？ それには、毎日の生活と生き方が大事。夫だから、妻だから、と役割にこだわらず、仕事、家族、余暇、遊び、趣味等々、もう一度見直し、自分を再発見しませんか？ 女性も男性も充実した暮らしをするために、どうすれば良いかを考えてみましょう。

そこで、自分再発見のための一歩として、チェックリストを作ってみました。今あなたがやりたいことを実行に移すためには、何が必要ですか？ 例を参考に考えてみてください。



1 今、あなたがやりたいことを入れて下さい (例 ボランティア活動をしたい)

2 それを実現できないのはなぜですか？ あなたを縛る鎖は…

家族では (例 外出すると不機嫌になる) <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>	親では (例 親が病気がちだから…) <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>
仕事では (例 仕事中心で地域を知らない) <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>	その他 (例 自由になるお金が少ない) <input style="width: 100%; height: 30px;" type="text"/>

3 あなたを縛る鎖をはずすために何が必要ですか？

4 いつまでに実行できますか？

5 あなたの決意表明を書いてみましょう

さあ、目標に向かって自分育てを始めましょう！
自分育ては、年齢に関係ありません。あなたもトライしてみたいはかがいでしょうか？

ジェンダーの視点から子育てについて考えていくうちに、子どもの可能性を広げるために、親の立場からだけでなく、学校ではどのような男女平等教育が行われているか知りたくなり、教育委員会指導課を訪ねてみました。

●学校で行われている男女平等教育とは、どのようなものですか？

学校教育において男女平等教育は、憲法及び教育基本法などに基づいて行なわれております。そして、男女平等教育は、人権教育のひとつとしてとらえています。現在、中学校においては、「技術・家庭」を男女一緒に学んでいます。調理が得意な男子がいたり、上手に電気回路を組み立てたりする女子もいます。体育では、女子も柔道や剣道などを学習しています。

●学校はどのように変わってきていますか？

生徒会長や応援団長で女子が活躍することが増えてきました。また、教師が子どもの名前を呼ぶときに、「〇〇さん」と呼ぶなど、呼び捨てにすることが少なくなりました。教師の側にも、男女平等意識、子どもの人格を尊重するという意識の向上がみられます。

●男女平等教育を進める上で、子どもたち・家庭・地域に何を望みますか？

子どもたちには、将来、社会的・精神的・経済的に自立して欲しいと思います。そのためには、人とコミュニケーションができ、自己表現できるような力が必要でしょう。子どもたちが健やかに成長していくために、家庭や地域で考える機会があるといいですね。そのために、PTAや家庭教育学級などで、学校や行政をもっと利用して下さい。

編集に携わって

「ポノ・ポノ vol.4」は平成16年度情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」を受講した私たちがつくりました。

.....

金田恭子：本誌に携わり、教育や人権について考える機会が増えたところに、ロシアでの学校占拠事件が起きた。人も自分も尊重することの大切さを見直す時では、と強く思う。

河田珠子：企画のみの参加となり残念でした。「家庭は社会ではないのでしょうか？」60有余年を社会(?)に出ることなく過ごした感想です。未来に繋がる、「今」を大切に。

小林世紀子：タウン誌を見て、編集の勉強をしようと参加した。若いお母さん方の頑張りをみて、子供たちにとって、浦安が「ふるさと」と呼べる、住み良い街になったらいいなと思った。

鈴木和子：十人十色。輝く色は個々を活かして一つになりました。男女共同参画の理念が多くの方に周知され、その実社会が早く来ます様に...

玉井香織：知ってビックリ、気付いてナットクの日々でした。何年も文章を書くことがなかったのも、とても難しかったです。まった

く使われていなかった脳に、本来の仕事を思い出させてくれたかな？

津川久美子：たったこれだけを編集するのに、一体どれだけの時間と知恵を使ったコトか...「新聞踏むとバチが当たるよ」祖母の言葉が身にしみる...

鍋野加津美：講座を通じて「自分自身で考える」ことの大切さ、難しさを実感しました。世の中の動きに敏感でありながら、流されず、いつも柔軟な心で在りたいと思います。

N・K：気がつけばいろいろな鎖に縛られている私たち、1つずつほどこいていったら、楽だなと思います。

堀 真弥子：また自分探しの上手い人に出会うことができました。今回のグループの皆さんにまた会う日が楽しみです。今よりもっと輝いているに違いありません。私も輝くぞ〜!

前田敬子：厚生労働省のいう無業者には「未婚者」という条件がつく。結婚していると無業者じゃないっていう考え方に、既婚女性は主婦業やっているとされている気がする。ポノ・ポノ効果かしらん。

「ポノ・ポノ」の意味

ハワイ語の「PONO」(意味は、正しさ、幸福、繁栄など)に由来します。2つ並べて「ポノ・ポノ」と声に出してみたときの響きが親しみやすいでしょう!

更年期世代 ~女と男が「理解し合う」チャンスにしよう~

更年期は女性ホルモン、または男性ホルモンの分泌が低下する40代から50代の時期を指します。人によっては肉体的(発汗、ほてりなど)、精神的(うつなど)な変化の症状が「更年期障害」となることもあります。

この「症状」が「障害」となる過程にストレスが大きく影響することが、近年わかってきました。また、最近では男性の更年期に注目が集まっています。ポノ・ポノでは、誰もが通る更年期を男女が相手の立場や気持ちを知るチャンスだととらえました。更年期世代に自分を振り返り、お互いが輝くためにはどうしたらいいかを考えてみませんか？

◆更年期世代のホンネ

今回は「ストレス」をテーマに更年期世代の男女それぞれから話を聞きました。お話をいただいた方は、50代男性4名、40代~50代女性5名です。

更年期世代が抱えるストレスは？



やはり更年期なのかな、外に出ると疲れやすくて。なのに夫は「また調子が悪いのか」なんて嫌な顔するし...

地域活動のリーダーって大変。自分から進んで引き受けたのなら、がんばるのだけれど、押し付けられた場合は、ささいなことでもイライラしてしまっている、と思われるし。

地域活動。いつもの仕事のやり方が通用しない、というのは大変でした。



うーん、ストレスといっても難しいね。感じないようにしているのかな...

家族や周囲に期待することは？

体調が悪いときには「大丈夫か？」っていう一言がほしい。たとえ心がこもってなくても(笑)その一言が重要なんだよ。



問題があっても自分の中で解決して、悩まないようにしているから期待することはない。



夫は不機嫌なことが多い。「今日は昨日よりは体調がいいな」とか、もう少し前向きに考えるようにしてほしいわ。



お互いを理解するために大切なことは？

定年退職した夫の腰痛をみると、自由な時間が出来たのに好きなことがやれず、かわいそうだなあ、と思います。腰でもさすってあげようかな、という気になったりして(笑)。相手の痛みに心を寄せると行動につながるのかもしれない。



優しくしてあげることも大切だけれど、自分でコントロールできる部分は、その人自身も変えていかなきゃダメだと思う。



50歳をすぎたころから「夫婦はそれぞれ別の人間」と考えるようになりました。「話してもどうせ分かってもらえない」から「だからこそ話をしよう」と思って話をしています。



心に思っていてダメなんだ。言葉に出して言わないとね。



◆もっと話し合おうよ。自分のこと・相手のこと

女性はストレスを「人に話して」発散するようです。それに対し、男性はあまり人に話をしていません。男性は「頼もしく」あるべきで「弱音を吐くことは恥」という思い込みがあるのでしょうか。しかし、女性も自分の健康などに関しては、人に話すことが少なくなります。

男女で更年期症状には違いがありますが、「つらい」のは同じです。熟年期を充実させるためにも、更年期の時期にそれぞれの思いを話し合いませんか。



あるアメリカ人男性は...

40代 浦安市在住

私の場合「自分は更年期かも」と、まず妻に相談しました。日本では体の悩みを、夫や妻に話せない人が多いようです。男性の更年期障害も認知されてきて、話しやすい環境になってきたのは良いことだと思いますが、これをもっと夫婦で話し合ってほしいな。

ストレスの内容別に見た対処法

	にストレスの解決に取り組む	人に話す	趣味・スポーツに打ちこむ	テレビを見たりのんびりする	アルコール飲料(酒)を飲む	なつたえ、なつたえ、なつたえ	じつとたえ、なつたえ	その他の対処法(特になしを含む)・不明
男								
職場や学校での人づきあい	5.8	18.4	22.3	12.5	9.6	8.5	22.8	
家族関係	7.2	7.2	12.9	12.6	16.1	20.2	23.8	
自分の健康・病気・介護	4.4	5.3	10.4	22.7	7.2	13.6	36.3	
女								
職場や学校での人づきあい	4.1		45.8	10.0	8.8	9.4	19.7	2.0
家族関係	3.8	0	33.4	7.7	6.6	3.6	16.0	28.8
自分の健康・病気・介護	4.6	17.7	7.9	19.0	11.8	1.1	37.9	